

1 組織の使命（どのような役割を担うのか）

北九州市が目指す都市像を実現するために、持続可能で魅力ある都市づくりを推進し、市民の生活の質の向上を図る。まちづくりの課題の解決に向けて、長期的・全市的な視点で、政策を着実に実行していく。

令和8年度は、現在策定中の小倉・黒崎地区におけるまちづくりの方向性を示す都市デザインをたたき台に、官民一体となってプロジェクトをいかに動かしていくか議論を深め、具体のプロジェクトとして実装していく。また、将来にわたり公共交通を持続可能なものとするため、バスやタクシー事業者が業界を超えて運転手確保や新たな移動サービスの実証を行う「北九州モデル」の第二弾に取り組むなど、公共交通ネットワークの再構築を進める。

2 基本情報

(1) 令和8年度局全体当初予算額

一般会計46.6億円(うち一般財源27.5億円)、特別会計5.8億円

(2) 組織(部名) (R8.4.1付)

総務政策部、計画部、指導部、都市再生推進部

(3) 所管の政策連携団体

北九州高速鉄道株式会社

(4) 所管の主な公共施設

指定管理

・天神島駐車場 ・勝山公園地下駐車場 ・黒崎駅西駐車場

3 令和7年度局区X方針の振り返り

○全体の振り返り(総評)

・A領域の課題であるDXの推進については、長期優良住宅認定申請や建築確認申請のオンライン化を完了し、建築確認申請のデータベース整備・システム構築についても、予定どおり取組を進めた。
 ・B領域及びC領域の課題については、いずれも単年度では解決できない課題であり、市民に具体的な効果をもたらすまでに至ったものは少ないが、課題解決に向けて着実に取組を進めることができた。

○変革が実現した課題・取組内容・市民にもたらされた効果

・小倉・黒崎地区における市の目指すべき都市像を示す「都市デザイン(たたき台)」の取りまとめを進めた。
 ・交通事業者と連携して、喫緊の課題である運転手確保などを行う「北九州モデル」を開始。具体的には、運転体験会や交流会などによる運転手募集、地域人材の活用によるおでかけ交通の運転手確保、おでかけ交通の利便性向上を図る予約システムの構築などに取り組み、運転手の採用、スマートフォンを活用した予約システムの構築などを実現した。

○取組・進捗が十分でなかった項目・内容(理由)・令和8年度に向けた考え

・「都市デザイン」のたたき台を公表し、官民一体となってプロジェクトをいかに動かしていくか議論を深め、具体のプロジェクトとして実装していく。
 ・運転手確保に一定の成果が得られた一方、多様化する移動ニーズへの対応、さらには夜間における移動手段の不足といった新たな課題も明らかになった。こうしたことを踏まえ、令和8年度からの「北九州モデル」第二弾では、人材確保の裾野を一層広げるため募集エリアを市外に拡大していくほか、多様化するニーズに柔軟に対応できる仕組みとしてきめ細やかな運行が可能なAIオンデマンド交通の運行を行う。

課題領域 B

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
都市交通	(1)将来にわたる公共交通の維持・確保	(1)公共交通の再構築(リ・デザイン)

【凡例】

○課題領域

- A ・行政サービス現場改善にかかる課題
- B ・課題の掘り起こしが済み、変革の実行段階にあるもの
 - ・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
- C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

4 課題

課題B (1) 将来にわたる公共交通の維持・確保【政策分野：都市交通】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】【緊急度:高】

②課題の内容

交通空白を生じさせないため、新たな移動サービスも含めたネットワークの再構築が必要である。

③課題の背景や現状

- ①運転手を採用しても定着が難しく、サービス提供に必要な人員の確保が困難。
- ②コロナ禍以降、公共交通利用者が戻っておらず、収益が悪化。
- ③燃料費・人件費の高騰、車両・施設設備の老朽化への対応により、事業経費が増加。

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

今後、廃止・減便による交通空白の拡大が懸念されるため、既存交通の維持、また、新たな移動サービスを組み合わせるなどにより、交通空白解消に向けた仕組みを構築すれば、市民が、持続的に日常生活に必要な移動サービスを楽しむことができる。

⑤令和8年度の実行内容(四半期間隔)

(1)公共交通の再構築(リ・デザイン)

・公共交通事業者全体での連携と役割分担に基づく移動手段を提供するため、北九州市が積極的にリーダーシップを発揮し、事業者間の全体調整を担う。

○公共交通ネットワークの再編

・交通事業者や関係機関等と交通ネットワークの再構築に向けた議論を深化させ、再編の方針を取りまとめ、「北九州市環境首都総合交通戦略」の改訂に反映する。

○デジタル技術の導入による「交通DX」の推進

・多様化する移動ニーズに対応するため、AIを活用した新たな移動手段の実証運行を実施するとともに、予約アプリのデータ等を分析し、タクシーの需給状況を把握し、適正な供給体制の構築に向けた実証運行を行う。

○運転手の確保

・これまでのバスやタクシーの垣根を超えた人材募集や、自治会のネットワークを活用した「おでかけ交通」の運転手募集に加え、人材確保の裾野を一層広げるため、募集活動エリアの拡大や周知を強化する。

第1四半期 (4~6月)	第2四半期 (7~9月)	第3四半期 (10~12月)	第4四半期(1~3月)
<ul style="list-style-type: none">・地域、交通事業者等との協議・交通施策の方向性と取りまとめ・AIオンデマンド等エリア選定・タクシーデータ調査	<ul style="list-style-type: none">・地域、交通事業者等との協議・交通施策の検討・AIオンデマンド等運行計画策定・地域人材の募集採用	<ul style="list-style-type: none">・地域、交通事業者等との協議・総合交通戦略取りまとめ・AIオンデマンドシステム構築・タクシー実証運行・官民連携運転手募集	<ul style="list-style-type: none">・地域、交通事業者等との協議・総合交通戦略の改訂・AIオンデマンド実証実験